

みんなのジュニア生態学講座

2026年3月15日(日) 14:00~15:30

開催場所: 国立京都国際会館 オンデマンド配信あり



樋口 裕美子
京大生態研

一直線でもない研究生活

植物の形、特に葉の形や模様が植食者にどう影響するのか研究しています。フィールド調査もしばしば行くので、小さいころから生き物が好きだったのではと思われることもあります。生き物や生態学に興味をもったのは大学に入ってからです。実習やサークル活動でさまざまな生き物に触れるなかで、葉の形が種ごとに少しずつ異なるのはなぜだろうと気になったのがきっかけでした。とはいえ、その疑問にまっすぐ進んできたわけではなく、修士課程までは外来雑草が侵入後にどう分布を広げるのかを調べていました。身近な植物が「なぜそこにいるのか」がデータから少しずつわかってくるのが面白く、研究の楽しさを感じました。博士課程からは研究室を移り、葉の形と葉を加工する昆虫の関わりについて研究を始めましたが、テーマを大きく変えたため、研究の方向性を定めるのに時間がかかり、試行錯誤もありました。まだわかっていないことも多く、最初の疑問も未解決ですが、データから野生植物の不思議を理解していきたいという点は、修士から共通しているかもしれません。講演ではそのような経緯も含めて、研究についてお話できればと思います。



村松 大輔
奈良教育大学

ひたすら動物を眺め続けるだけの簡単なお仕事です

私は動物の動きを調べる動物行動学を専門にしています。これまでの研究は「カニのハサミ振りにどんな意味があるのか」や「ナマケモノはどうやって省エネを実現しているのか」など、それぞれ小学校の自由研究に毛が生えたようなものばかりです。誰にとってもわかりやすい研究なのはよいのですが、お金が儲かったり、誰かの役に立ったり、地球の未来に貢献したりするようなものとはいえません。そのせいか、研究費を得るのも職に就くのも至難の業です。昼は大学に通い、夜はバーで働くという生活で、博士号を取った時には30歳になっていました。その後も定職に就くことはできず、非常勤講師や教務補佐員、研究員などを務めながら、何とか食いつないできました。現在は1年契約・週3日勤務の特任准教授として働いていますが、特任教員の通産契約期間は10年以下という規程があるので、またフラフラとどこかへ流れてゆくことでしょう。大学にいる研究者はいつも忙しく、傍から見ると大変そうに見えるかもしれませんが、おそらく他の職種より自己裁量権が大きく、自由な生き方ができます。なにより、興味の赴くまま研究する人生を歩むのはそう悪くないですよ。いや、ほんとに。



米原 善成
株式会社ポケモン

「ポケモン」から生き物の面白さを伝える

私は現在、株式会社ポケモンという会社に所属しています。仮想世界の「ポケモン」という不思議な生き物をプロデュースする仕事です。2025年6月に、私が企画・構成・執筆を行った「ポケモン生態図鑑」という本が発売されました。この本では、ゲーム「ポケットモンスター」シリーズのポケモン図鑑の説明文や、ポケモンの体の特徴や動きを調べ、採餌、個体群動態、群れ、共生、擬態、概日リズム、体温調節、移動能力などの生態学のテーマとなるような要素に沿って紹介しています。この本を作る土台になったのは、ポスドクまでの研究の経験です。私は、生き物に記録計を付けて行動や運動を計測するバイオリギングという手法を使い、ミズナギドリなどの飛行メカニズムや行動を研究し、その中で行動生態学などを学びました。そこで学んだことを活かしてポケモンを見ることで、ポケモンの魅力をさらに引き出しつつ、子供から大人まで多くの方が生態学の考え方に触れるきっかけを作れるのではないかと考えています。「ポケモン生態図鑑」はそんな想いの結晶です。本に込めた想いととも、生き物を研究して学んだことを活かす意外な道もあることを紹介できればと思います。